農業をしなくてもよいのなら…

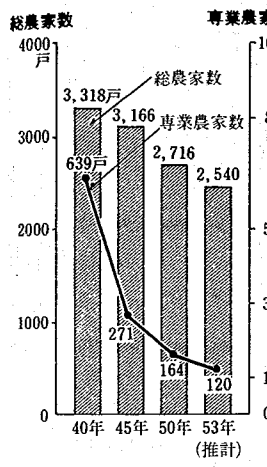
農業に関するアンケート調査がまとまりました

さきごろ市では、市内の青年を対象に、「農業に関するアンケート調査」を行いました。これは、農業後継者の確保、さらには配偶者確保対策の第一段階として、青年層の農業に関する考え方を把握するために行ったものです。

このほどその結果がまとまりましたのでご紹介します。

調査対象は市内の独身者

〝三ちゃん農業〟という言葉が使われだしてから、ずいぶん時間がたちました。当市でも左のグラフでおわかりのように、農家数はグングン減っています。なかでも、専業農家数は、昭和四十年にくらべて五分の一という激減ぶりです。



しかし、最近はまた農業が見直されてきたためでしょうか、農業を継ぐ若者も徐じょに増えてきたと新聞などで報道されるようになりました。当市でも、意欲を持った農業後継者が育ちつつあります。

ところが、せっかくいい後継者ができても、「なかなかお嫁（婿）さんがきてくれない」――こんな悩みが多く聞かれるようになりました。いわゆる農村の〝嫁不足〟といわれるものです。

そこで、アンケートの対象者は、市内在住者で、昭和二十九年～三十一年生まれの独身男性と、昭和三十年～三十二年生まれの独身女性にしぼりました。

アンケート調査票を配布したのは千二百人、そのうち、四百八十八人（男二百七十六人、女二百七十二人）の方から回答があり、回収率は三七・五％でした。

なお、グラフでA、B、C、Dとあるのは、A―農家の男性、B―非農家の男性、C―農家の女性、D―非農家の女性の区分です。

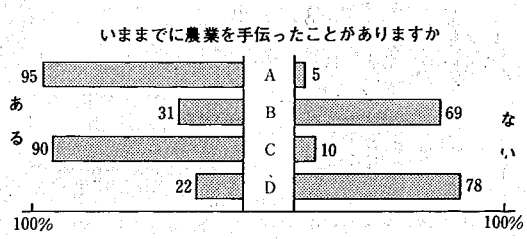
女性より男性が意欲的

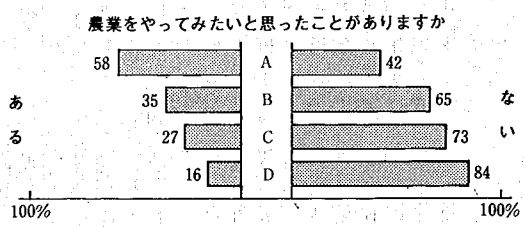
右上のグラフをごらんください。これは、いままでに農業を手伝ったことがあるかどうかをたずねたものです。

当然のことながら、農家の男性、女性の大部分は手伝った経験がありますが、農家の男性の五％、同じく女性の一〇％が、手伝ったことがないと答えているのが注目されます。

また、右下のグラフは、農業をやってみたいと思ったことがあるかどうかをたずねたものです。

農業をやってみたいと思ったことがある方は、農家の男性で五八％、同じく女性でわずか二七％なのにくらべ、非農家の男性のうち、三五％もの人が農業をやってみたいと思ったことがあるというのが目立ちます。





お買物、ご用命は市内で

看板■車輌文字専門
技術本位……
有限会社 江本看板店
新津市本町1　TEL (2)－1380

メガネのことならご相談下さい
Nikon ニコンメガネレンズ
にいつ メガネセンター
野本時計店 眼鏡部
本町3丁目 TEL 2－0070

長井正樹さん

意欲を持って農業に取組んでおられる長井正樹さん（青年農業士、市之瀬）に、農業後継者問題などについてお話をうかがいました。

＊　＊　＊

私の場合は、何となく後を継いだという感じですネ。おやじは「普通高校から大学へ行け」と勧めてくれたんですが、中学を卒業する頃はみんな反抗期でしょ、私にも意地があって、親のいうことには素直にしたがえなかったんですネ。それに先輩が加茂農林へ行ってまして、私も親を無理に説得して加茂農林へ進んだようなわけです。

おやじは「後を継げ」なんてことは、全くいいませんでした。でも高校を卒業する頃、親の働く姿を見たら、「よし、俺が後を継がなければ…」という気持ちになったことは確かですネ。ですから、「後を継ぐよ」といった時は、おやじの方があわてましたよ。

一年目は見習いで、二年目からは仕事を全部まかされました。全責任を負わされたわけですが、それだけに働きがいもあったし、勉強にもなりました。いま振返ってみて、農業を継いだことに後悔はないし、よかったと思っています。よくいわれるように、作物を育てる喜びがあるし、自分で自分の生きがいを求められる仕事ですからネ。

安心して農業ができる環境に…

農家になかなか嫁がこないーーこれにはいろいろ原因はあると思いますが、根本には、自分の家には嫁が欲しい、だけど娘は非農家へという親の意識があるんじゃないですか。よく農業は仕事がきつい、といわれますが、機械化が進んでいますから、いまはそんなことはありません。きちんと労働時間を計算してみれば、サラリーマンよりむしろ楽じゃないかと思います。

また農業青年の行動半径も、昔にくらべれば広くはなりましたが、職場が限られていて女性と接する機会が少ないのも大きな障害ですネ。それに自分を振返ってみていうんですけど、どうも女性のくどき方がへたなんじゃないですか。私は若い農業後継者たちによくいうんですよ、「仕事は泥まみれでやれ、だけど仕事を離れたら、センスよく、スマートにやれ」ってネ。

でも後継者育成の根本は、農業を本当に魅力ある仕事にすることじゃないですか。いまみたいに、後継者育成といいながら生産調整というような矛盾した農政では安心して農業をやれないですからネ。それに、いまは稲作の受委託が増えていますから、安心して受委託契約を結べるような条件整備とか、農政に若い人の意見も取入れていけば、自然と後継者もできるような気がします。

私もいま子どもがいますけど、晩しゃくをやりながら、よく子どもに仕事の話をしてやるんですよ。継がせる継がせないは別にして、自分の仕事を誇りを持って子どもに伝えていく――親として大切な姿勢じゃないでしょうか。

全体としてみた場合、女性より男性の方が農業に意欲を持っているようです。

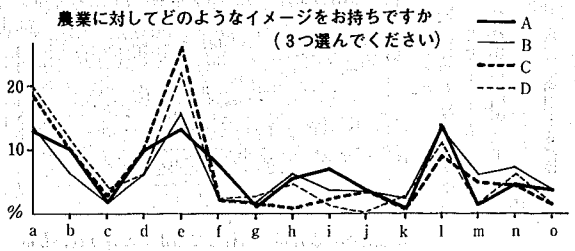
関心は金銭より労働内容に

左のグラフは「農業」からどんなことを連想するかをたずねたものです。

回答を見ると、どの集団も「労働時間が不規則である」、「労働がきつい」、「生産の喜びが味わえる」の三つが多くなっています。農業に対するイメージは、農家、非農家を問わず、だいたい共通のものがあるようです。

また男女別では、「労働がきつい」、「労働時間が不規則である」の項目で女性の回答が多くなっています。

農業に対するイメージの集計結果がこのように出たわけですが、全般的に見た場合、「生活が苦しい」とか「お金がある」という項目には回答が集まらず、金銭的問題より、労働内容への関心が深いことがうかがえます。



a．労働がきつい
b．仕事が忙しい
c．仕事がきたならしい
d．兼業で生活が充実していない
e．労働時間が不規則である
f．生活が苦しい
g．封建的である
h．自立経営で働きがいがある
i．家族と一緒に働けてよい
j．自由時間が多い
k．お金がある
l．生産の喜びが味わえる
m．機械化されて仕事が楽
n．資産があってよい
o．その他

お買物、ご用命は市内で

ボリュームある肉料理専門店
とんかつ すき焼 箱岩
新津市本町3　TEL 24516

銘菓
秋葉山・平和塔最中・三色だんご
御祝儀・仏事用菓子
御菓子司 (有) 旭入
新津市本町一丁目(バスビル前) 電話2－0462